

イノベーションの推進 BX

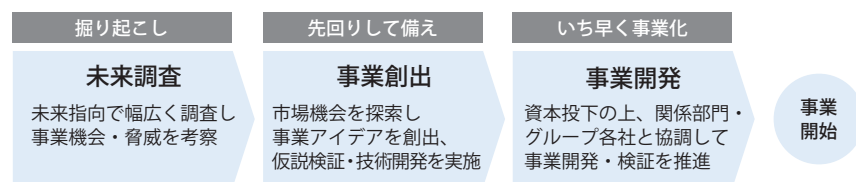
関西電力グループでは、VUCA (将来の予測が困難) な時代、非連続な環境変化への適応を目指して、自律的かつ持続的にイノベーションを創出できる仕組みを整備するとともに、事業創出や業務変革につながるイノベーション活動を積極的に推進しています。

未来志向型のイノベーション活動への深化

中長期の目線で政治・経済・社会・技術 (PEST) の幅広い動向から、変化をいち早く捉えて新たな価値の創造につなげるため、2023年7月、イノベーション推進本部を新設するとともに、未来志向型価値創造プロセスの稼働を開始しました。従前に比べて、より長い時間軸で幅広い動向を調査、得られた示唆から投資や実証等のアクションや仮説の磨きこみにつなげるなど、イノベーション活動は着実に進化しつつあります。

※データセンター事業などの事業化事例はP.63~64参照

未来志向型価値創造プロセス

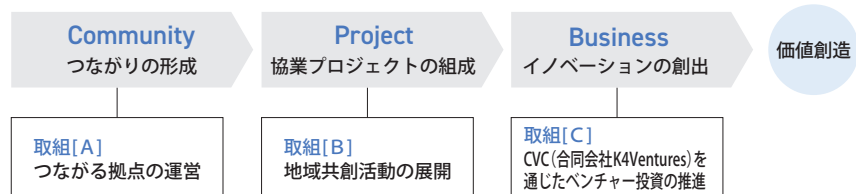


当社グループ全体のイノベーション活動を推進し、この価値創造プロセスを適切に機能させるための主な取組みは以下の3つです。

オープンイノベーションの推進

当社グループでは、オープンイノベーションによる価値創造の流れを意識しつつ、さまざまな取組みを進めています。

オープンイノベーションによる価値創造の流れと取組み



A. つながる拠点「エナレッジ」の運営

当社は、新たな価値の創造を後押しするオープンイノベーション拠点「エナレッジ」を運営しています。個人や組織など様々な枠組みを超えたパートナーの皆さまとの交流や各種活動を展開しており、2023年度は40を超えるイベントを開催、のべ1,500名を超えるみなさまにご参加いただきました。今後もエナレッジを起点に、さまざまな組織・人とのつながりを広げ、強めていきます。



関西電力エナレッジ



enelligence
 未来のあたりまえになるイノベーションを、ここから。

所在地：大阪市北区大深町3-1
 グランフロント大阪北館
 ナレッジキャピタル3階

WEB つながる拠点「エナレッジ」の運営
https://www.kepco.co.jp/energy_supply/innovation/oi/enelligence/index.html

B. 地域共創活動の展開

当社は、各地域において、さまざまな組織・人と連携しながら事業共創活動を展開しています。例えば、福井県では、パートナー4者とともに水産の共同研究を開始し、競争力のある魚種の開発を行っている他、自治体や地域事業者と協力し、地域特性を踏まえ、持続可能かつ地域活性に貢献する水産事業の構築に取り組んでいます。

その他、地域が抱える課題について、都市部の企業や域内の関係者と連携し、ビジネスで解決する取組みを進めています。



地域共創活動

WEB 地域共創活動の展開
https://www.kepco.co.jp/corporate/pr/2023/pdf/20231005_1j.pdf

イノベーションの推進 **BX**

C. ベンチャー投資の推進

革新的な技術やビジネスモデルを有するベンチャー企業と連携し、将来的な事業多角化、イノベーション創出につなげるため、合同会社 K4 Ventures を投資主体とするベンチャー投資を推進、2024年6月末までに累計39件の投資を実行しています。2024年度からは投資枠を累計180億円に拡大、①ゼロカーボン、②DeepTech、③地域共創の3つを重点投資領域に定めて活動を強化、有望なベンチャー企業の成長を後押ししていきます。

直接投資の実績

投資枠	投資先
1号	Ubie 株式会社 株式会社 VPP JAPAN 株式会社 SIRC エディットフォース株式会社 CONNEX SYSTEMS 株式会社 NEXT-e Solutions 株式会社 ビクシーダストテクノロジー株式会社 株式会社 Space Power Technologies ヒラソル・エナジー株式会社 エクセルギー・パワー・システムズ株式会社 インフォメティクス株式会社 ネクストエナジー・アンド・リソース株式会社 Okage 株式会社 テラスマイル株式会社
2号	株式会社 ALGO ARTIS ウィルポート株式会社 株式会社名城ナノカーボン 株式会社/パワーエクス スペースワン株式会社 株式会社シュークルキューブジャパン 株式会社クリーンエナジーコネク 株式会社EVモーターズ・ジャパン フォロフライ株式会社 株式会社ゼロボード 京都フュージョンアリング株式会社 株式会社シェアリングエネルギー アークエルテクノロジー株式会社
3号	株式会社 enechain

ベンチャー投資の推進
<http://www.k4v.co.jp/>

また、資金面以外にも、技術開発環境の提供をはじめとして、ベンチャー企業の成長の後押しにつながるさまざまなリソースを提供することが可能であり、当社グループの総力を挙げて成長を後押ししていきます。



技術開発環境の例：尼崎実験センター

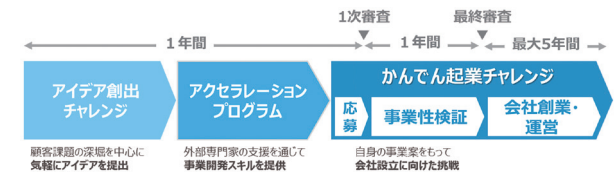
イノベーション風土醸成・人財育成

自律的かつ持続的にイノベーションを創出するには、Willを持ったイノベーション人財を継続的に発掘し、成長を後押しすることを通じて、挑戦する組織風土を醸成することが重要です。これを実現するため、当社グループでは、全社員が参加できるさまざまなプログラムを展開しています。

イノベーション風土醸成・人財育成に関するプログラムの例



例えば、当社グループ社員が新規事業アイデアを提案し、審査に合格すると事業化ができる社内起業制度「かんでん起業チャレンジ」を運営しています。加えて、「かんでん起業チャレンジ」への提案を後押しし、参加者のWillや素質を引き出す施策として、新規事業のアイデアを出し合うコンテスト「アイデア創出チャレンジ」、アイデアを事業プランまで高める「アクセラレーションプログラム」を展開しています。



「かんでん起業チャレンジ」は、制度開始の1998年から2024年6月末までの間、累計800件を超える挑戦があり、9社を創業、そのうち4社は現在も当社グループの一員として事業を展開しています。

また、2023年6月には同制度により創業した会社を他社へ譲渡するなど((株)猫舌堂を小野薬品工業グループに譲渡)、「かんでん起業チャレンジ」はイノベーション風土醸成・人財育成の枠を超えた活動へと進化を続けています。今後、当社グループ社員のWillをさらに引き出し、Willをもった仲間同士でつながり、切磋琢磨し続けられるプログラムへとアップデートすることで、イノベーション人財の継続的な発掘・輩出、組織風土の醸成を一層図っていきます。

価値創造につなげる活動の推進

イノベーションの推進には、ビジネス競争力の源泉となる技術や知的財産に対する感度を高め、その獲得、利用を図ることが重要です。特に、知的財産については、特許権などの知的財産権のほか、規格などの標準化を個々のビジネスに応じて適切に使い分けることが必要です。今後、標準化活動の責任者であるイノベーション推進本部長のもと、各事業部門と連携し、事業検討段階や、エネルギー関連システムをはじめとする技術の開発初期段階から標準化に向けた活動を進めていきます。